



2025年4月15日 発行

2025年 春号

<第65号>

編集・発行／社会福祉法人ワークスユニオン 代表／池田直樹 〒551-0001 大阪市大正区三軒家西1丁目17-18 TEL06(6556)0881

## 法人忘年会

## ゆるスポ

### 旅行の思い出

和の一年間の中で一番楽しかったことは、岡山の旅です。ヤクルト工場ではつば九郎がバットを打った、キーホルダーを作りました。最近、つば九郎のスタンプが亡くなったと聞いて、とても残念です。

「びぜんや甲子」の旅館に泊まりました。前に来たこともあります。カラオケをしました。おもしろい話もしました。特におもしろかったのは、私が職員の顔の前で、尻をこいたことです。みんなで大笑いしました。

おもちゃ王国では、機関車など乗りものに乗りました。とても楽しかったです。来年度の旅行は、長崎、福岡、佐賀に（九州旅行）に行きたいと思います。

細野 早苗



## 法人全体行事

昨年の12月に法人忘年会、今年の1月にゆるスポーツフェスティバル(以下ゆるスポ)と法人全体の行事を2つ行いました。特にゆるスポは、今回初めて法人全体に参加募集を募り、いつも以上に盛り上がり楽しんでもらえたと思います。今回はその2つの行事の報告をさせていただきます。

### 法人忘年会



令和6年12月14日に昨年と同じくプリムローズ大阪にて法人忘年会を開催しました。

今回は卓盛での食事提供になり、パーティーションが解除され、また利用者さんと同じテーブルに職員も着席ができ、やっとコロナ禍前の状態に戻った会になりました。

法人忘年会では、開会宣言・乾杯の音頭・閉会宣言を利用者さんにお手伝い募集をして一緒に盛り上げて貰っています。

開会宣言の担当になったAさんは、日頃誰にでも気軽に話しかける事が出来る

方ですが、この日はかなり緊張されていたようで、壇上上がる前から一切笑顔が見られず宣言中も一点を見つめて発言をしていました。なんとか無事役目を果たせた後は食事やゲームを笑顔で楽しまれていたので、ひと安心しました。

終盤の「YMCAで踊ろう」は、コロナ禍中は真っ先

に中止になり、4年ぶりの復活です。音楽が鳴り始めると利用者さんの一部は一斉に舞台上がって踊りま

す。その他の利用者さんは、盛り上がりつつある雰囲気を楽しんだり、壇上には上がらないけど、その場で一緒に歌ったりと盛り上がり方や楽しみ方は様々でした。その中でも普段クールっぽく見えるBさんが席の側で立ち上がり、腕を上げて笑顔で踊っている姿は新鮮でした。

また皆さんが笑顔になれる法人忘年会を考えていたのだからと思います。(助野)

### ゆるスポ



毎年恒例の「ゆるスポ」ですが、今年度は場所を新たに鶴見区民センター『つるみ日建ホール』で開催しました。体育館の用途では使えないため、担当職員間でアイデアを出し合い、これまでとは違う競技を組み込み、久々に一日開催のプロ

グラムを計画し、これまでとは違った形で楽しい時間を過ごしました。

た。得点エリアを設定して、止まった玉の数を得点にしましたが、狙ったエリアに球が止まらないことが多く苦戦される利用者さんが多いなか、狙い通りの場所です止まった時は一段と盛り上がりを見せました。

午前中は「魚釣りゲーム」という、池に見立てたブルーシート内に、魚を散りばめ釣竿で釣り上げた数を競うというゲームを行いました。釣竿を短く持ったり、人が密集していない場所ですくの魚を狙うなど、それぞれ作戦を立てて競技を楽しんでおられ、Aさんは「狙った魚はなかなか釣れないけれど、ハラハラドキドキして楽しい」と感想を話していました。

当日輝いていた利用者さんをたくさん表彰しました。ドラムロールが鳴ると、誰が呼ばれるのか、ワクワクしておられるのも印象的でした。参加賞として故・道田篤史さん作の鯉のぼりをプリントした缶バッジを配布し、在りし日の故人を懐かしむ場面もあり、ほっこりする時間も流れました。

昼食をはさみ、午後からは「和・匠・UNION★STARS」のダンス発表や「ポツチャ」を行いました。初体験の利用者さんも多く、担当者でアレンジしたルールで競技を行いました。

ゆるくみんなで楽しめる「ゆるスポ」、今後もみなさんで楽しめるように計画したいと思います。(高橋)



## 藤田 昌義さんへ

令和7年2月18日火曜日に、藤田昌義さんが逝去されました。藤田さんは、「ルネッサンス」で生活し、日中は「匠」を利用していました。若い頃には自衛隊に入隊しており、運動をよくしていたと話されていました。また絵心もあり、とても独特な表現で素敵な作品を創作していました。お話しされる際の言葉選びが非常に魅力的で会話を通じて心が和むことが多々ありました。昨年は治療をしながらも匠に通っていました。12月からは長期の入院を余儀なくされました。藤田さんの明るい声が聞けなくなりさみしい今日この頃です。ご冥福を心からお祈り申し上げます。

(職員一同より)

▼藤田さん長い間お世話になりました。早く天国へ行きました。道田君や石井敏子さんに会っていますね。小野原さんのところへ行ってますね。

竹村和子

▼藤田さん天国で元気でいて下さい。歩でも仲良かったですし、事業所旅行でも仲良かったですし、匠でも仲良かったですし、野外活動の時もなかなかったのです。藤田さん今ごろ天国に、行ってどうしていますか？少しさみしいね。いつでもおもったときたいです。

大成真理子

▼私は藤田くんがなくなつてとてもさみしいです。元気で匠に戻ってきてほしいかった。では、藤田君あの世から匠のみんなを見守ってね。

桑田悦子

▼ゆっくりやすんでね。天国でみんなをまもってね。メゾンで過ごしたね。藤田さんさようなら。日向弘志

▼「なんまいだ〜」いつかまた会って旅行に行つて二人でたばこを吸いたい。

▼さようならまた天国行ってさみしかった。ダンスもいっしょにいつもありがとう。また、会う日まで！

浦島富雄

▼長い間たくみでゆっくりとすごしていましたね。天国にいかれてすぐさみしい気持ちでいっぱいです。私もすこしずつ元気を出してたくみですこします。

大住優子

▼旅行に行った時が楽しかったです。出雲大社に行つた時がとてもよかったです。

山形繁雄

▼悲しかった。歩のとき、仲良くしてくれてありがとうゆっくり休んでください。みんなとがんばってください。さんぽといっしょに行つてくれた。

山崎健

▼いつもごはんの時いっしょになりましたね。ふじたさんが食どうに出来ないのさみしいです。天国でゆっくりすごしてください。

笹山和義

▼食堂でウオークマンを聞いている食堂でいろいろ話をした。外で座つてウオークマンタバコを吸っていた。富田林の話をした、部屋あいてしんみりなつたさみしいけどありがとう。

杉岡慎也

金邊裕美

さい。

佐々木一行



## 久しぶりの大舞台

「UNION★STARS」は、2月2日(日)アブラ高石ホールにて行われたダンス発表会に参加しました。大きな舞台での発表は2年ぶりとなります。

初めて踊るホールで、一緒に参加している団体がいつもと違うこともあり、利用者さん達は不安や緊張があるかと懸念していました。が、皆さんリハーサルの際にも堂々としていてとても心強かったです。

今回は体調不良などで練習を欠席する人が多く、いつもより練習量が少ない状態で、ギリギリまで苦戦し

ていました。なんとか本番までに仕上げる事ができ当日は、出番直前まで発表曲を流し続けて気持ちを皆で高めていました。

メイクや衣装などの準備は、ダンスメンバーだけでは時間的に難しく、いろいろな人たちに助けってもらいなんとか乗り切ることができました。

本番ではみんなしつかりと踊りきることができ、たくさんの拍手をいただきました。ダンスメンバーもやり切った表情で終えることができました。

恒例の発表会後の打ち上げは、おしゃれなイタリアンバイキングのお店で大いに楽しみました。

今年は、9月14日(日)「大阪・関西万博」にてダンス発表させてもらうことになりました。初めてのことで、今からドキドキしています。チーム一丸となって頑張って練習していきますので、応援よろしくをお願いします。(横田)

## 雪山へgo!!



今年の2月15日に滋賀県の箱館山スキー場まで利用者さん19名、職員19名で、ゆきあそびに出かけてきました。当日の現地箱館山は積雪も1メートルあり、雪質もパウダースノーで大変遊びやすい環境でしたが、快晴で少し暑いぐらいのコンディションでした。

現地到着後、毎回苦労するのは昼食で、今回もいつもの山小屋は大混雑で、席をとるのも一苦労でした。

昼食後は今回の目玉であるスノーラフティングに挑戦しました。雪上用ゴムボートに乗り、スノーモービルで引つ張ってもらい、雪山を周回する遊びでしたが、運転手さんが引つ張るスピードを配慮してくれたこともあり、それほど怖くない速度で雪山を滑走。途中に琵琶湖を眺めることができ、冷たい風を感じながら雪山を走り爽快感溢れる体験になりました。利用者さんに

も大変好評で、中にはもう一回乗りたい!と話す方もいました。

その後はいつもの遊び場

に向かい、ソリ遊びや雪合戦を楽しみました。小高い丘から滑り降りるソリ遊びは毎回利用者さんも楽しみにしているようで、何度もう丘に登り、滑り降りるのを楽しんで利用者の皆さんの表情が印象に残りました。チーム対抗雪合戦も、的を持った職員目掛け、思い切り雪玉を投げつけて笑っていた利用者さんの笑顔をみて、普段雪を見ることのない都会生活からの非日常体験はいいなと感じるゆきあそびになりました。(濱野)

## 編集後記

▼ワークスユニオンの行事のほとんどが「10回目」を迎えている。どれも今となっては当たり前の行事となり、日常を彩る楽しい出来事だ。▼季節に応じた行事もあれば、季節に縛られないものもある。▼法人の行事担当は毎年変わり、担当となった人たちで会議を開きどのような行事にしているか何度も話し合い、当日を迎える。▼毎年担当が変わるから同じ行事であって担当者たちの個性が表れ違う色の行事となる。▼私とはというと毎年同じものではなく、出来る限り新しいものを作りたい、と思っている。▼行事が利用者さんにとって楽しめるもの、季節を感じられるもの、みんなで集まるもの。それぞれの受け取り方で、それぞれ楽しんで頂けたらと思う。▼こんな行事がしたい!とご希望がありましたらご気軽ににお寄せください。(K)